

初雁自由政令会 **牛窪喜史****子が健やかに育つ義務教育** 5

問子どもたちが多様化している中で、学びの保障をどのように行っているのか伺う。

答学校教育部長 通常の学級、特別支援学級にかかわらず、子どもたちの特性と実態を把握した上で、子どもたち一人一人の教育的ニーズに応じた学びの保障に努めている。

一人一人の特性に応じて、通常の学級の子どもたちが、特別支援学級で授業を受けることができたり、特別支援学級の子どもたちが、通常の学級で授業を受けることができたりするなど、柔軟な学びの保障を行っている。また、少人数での指導、個別での指導の工夫も行っている。

📌 健やかに育つ義務教育

川越志政会 **松本きみ****特性のある未就学児支援を** 7

問発達に特性のある子に対する支援として、今後、児童発達支援センターで行っていく取り組みについて伺う。

答こども未来部長 改正児童福祉法の動きを踏まえ、発達に特性のある子などが適切な支援につながるよう、地域における中核的役割を果たすことが児童発達支援センターの役割の一つとして重要であると考えている。

このため、幅広い高度な専門性に基づく発達支援、家族支援、相談事業を継続するとともに、保育所や幼稚園、児童発達支援事業所などとの連携を強化し、地域全体の支援の質の向上に取り組んでいきたいと考える。

📌 発達特性のある未就学児

日本維新の会 **柳沢貴雄****難病の普及啓発について** 9

問難病患者やその家族が地域社会で安心して生活していくために、市として、普及啓発をどのように行うか、市長の考えを伺いたい。

答市長 難病は外見からは病気と分からない疾患も多く、難病患者が孤立しやすい状況にあるとともに、家族も患者の心に寄り添い日々の生活を送っていることと認識しており、難病患者と家族を社会全体で支えていくことが必要と考える。難病患者や家族が社会から孤立しないよう、関係機関が連携し、切れ目のない支援を行える体制づくりに努め、安心して生活していけるよう、引き続き、難病に対する理解促進に向けた啓発を推進する。

📌 難病に関する普及啓発

初雁自由政令会 **村山博紀****自転車事故の減少に向けて** 6

問自転車用ヘルメットの着用率向上の取り組みや自転車通行空間の整備が必要と考えるが、子どもや高齢者の自転車事故減少のための効果的な対策について市の考えは。

答市民部長 市内の小学生を対象に交通安全教室を実施し、小学校3年生から6年生には自転車の安全な乗り方の教育を行っている。高齢者には、交通安全講話を実施し、交通安全意識の向上に努めている。その他交通安全運動、各種キャンペーン等の機会を通じ、自転車の安全利用について周知・啓発を図っており、今後も自転車事故の防止に努めていく。また、注意喚起の路面表示、看板設置などの交通安全施設の整備を推進していく。

📌 自転車等の諸課題と対策

川越志政会 **糸真美子****若者のためのクリニックを** 8

問思春期は心や体、性の悩みを抱え、性感染症、性暴力等のリスクにさらされている。正しい知識が得られる相談支援の場ユースクリニックが有効だが、市の考えは。

答栗原副市長 若い人が、性や健康に関する正しい知識を身に付けるとともに、思春期の心と体の悩みなどを相談できる場があることは重要と考えている。そのため、まずは、ホームページ等を通じた情報発信に努めるとともに、ユースクリニックを参考にして、関係団体と共に試行的に取り組むなど、若い人の健やかな成長を支援できる効果的な実施方法等について、検討していきたいと考えている。

📌 事業継承の支援策

📌 ユースクリニック

政策フォーラム **片野広隆****企業誘致に向けた道路整備** 10

問市内で慢性的に発生する渋滞による経済損失を精査し、今後、企業誘致等の施策を推進していく上で、幹線道路を含めた道路整備についてどのように進めていくのか？

答建設部長 現在、本市では、川越工業団地と国道254号を結ぶ（仮称）川越東環状線の整備を重点的に推進している他、県が推進する川越北環状線の4車線化事業について、連携して取り組んでいる。今後も引き続き、（仮称）川越東環状線の整備を推進するとともに、企業誘致などに係る関係部署とも連携して、道路整備の在り方について検討していきたいと考えている。

📌 企業立地と交通インフラ